

秦野の里山 危機

オオムラサキやオオタカ生息

八国見山に霊園計画

秦野市渋沢・峠地区にある八国見山(319㍍)の南側区域に、大規模霊園の建設計画が持ち上がっている。国蝶のオオムラサキなど貴重な動植物が生息し、2002年には環境省から「里山里山保全再生モデル事業地域」に選定された、県内有数の里山の自然環境が破壊される恐れがあるとして、自然保護団体などは計画変更を強く求めている。

【高橋和夫】

開発の法人「手続きは適法」

八国見山は大磯丘陵(東西15㍍、南北10㍍)の西端にあり、丘陵の中では最も高い山の一つ。南側は中村川の源流域で急峻な尾根と谷が入り組む、谷戸状の地形だ。山頂からの斜面一帯は、同丘陵で最大級のクヌギ、コナラ群集があり、アラカシなど常緑広葉樹林が点在する。

動植物の宝庫であり、食物連鎖の頂点に立つオオタカ、ノスリ、タカ類を筆頭に、オオルリ、サンコウチョウなど年間90種を超える野鳥が見られる。オオムラサキは県内トップクラスの繁殖地となっているほか、多年草のズンウカンアオイやチョウのアサマイチモシなど、環境省や県が保護を要する植物も少なくない。

県は1990年の地城環境評価書で「極めて良好な自然緑地。植生のにも重要」と最高のA1ランクと評価した。さらに「地形、水系、緑を一体として保全し、特に動植物の生息・生育環境、生態系、森林機能を保全すること」が望ましい」と、緑の回廊の心臓部にあたるこの区域の環境に配慮するよう求めた。

ところが、90年代後半から霊園開発計画が浮上。秦野市も霊園とすることを認め、事



今月2日、八国見山の尾根に生息するズンウカンアオイを調べる渋沢丘陵を調べる会メンバー

とが望ましい」と、緑の回廊の心臓部にあたるこの区域の環境に配慮するよう求めた。ところが、90年代後半から霊園開発計画が浮上。秦野市も霊園とすることを認め、事

人・相模メモリアルパーク(斐川町)は南面に林地約19・8㍍の霊園建設を公表し、用地買収を進めてきた。20㍍以下の開発面積であれば、県の環境影響評価を受ける必要はないという。

同法人の計画では、電波塔がある頂上近くの標高約300㍍付近から切り土し、源流部を埋め立て敷地を造成しての利用を認め、事

成。「生物多様性に富む公益性の高い南斜面を開発して、何が公益法人か」(同市の日置乃武子さん)などと訴え、反対署名を集めるなどの運動を展開している。

同法人の石山靖久・秦野事業所長兼霊園建設室長は、「手続きは

地元住民らも「渋沢丘陵を調べる会」を結

すべて適正適法。指摘された点は十分考慮する。私どもは霊園を売り逃げする立場ではない。オオムラサキが飛び交う緑いっばいの林間霊園にして、後々に評価されると思う」と述べ、計画区域の規模は縮小しない考えを示した。